

マタイの福音書 第6章 26節

「空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。けれども、あなたがたの天の父がこれを養ってくださるのです。あなたがたは、鳥よりも、もっとすぐれたものではありませんか。」

普段何気なく見過ごしている道路端の小さな花だが、立ち止まり見入ると神秘的なほどの美を備えていることに気付かされる。そのささやかに咲く姿さえ十分に説明出来ない美がある。なによりも、道行く人々が目を止めようが、止めまいが時が来れば咲、時が来れば枯れることの在りのままが美しい。

ここでも、ありふれた鳥に目を止めなさいと招く。見上げればどこの空にも飛び交う鳥である。見なさいと言われて見える鳥である。ありふれた一羽の鳥でさえも目に止める者には不思議な物語がある。自然にあるものに全く依存して、糧を得、自由に空を飛び交う。そのすべてを支えるお方がいることに気付かされる。

鳥を見上げる者が気付かされる。この鳥にまさる者を支え、生かすお方がいることにこころを向けさせられる。そのお方を知るイエスが鳥を見ている者たちに語って聞かせる。見て気付くだけでなく、注がれる愛に気付く。